Ｒ７　成長ノートの取組について

研究主任

１．本校が取り組む成長ノートとは・・・

「自分の内面を見つめ、それを自分の言葉で書き記していきながら、教師と子どもがつながり、成長へと向かうためのノート」

＊菊池省三先生の実践を参考に…

２．成長ノートのねらい

①子どもたちに、心の成長を実感させる

学校生活の中での望ましい姿や考えさせたい出来事について自分の内面を見つめさせながらその時、その場面にあった言葉で書かせたり、それに対する教師の考えを伝えたりすることを通して、心の成長を実感させるとともに自己肯定感を高める。

②教師が子どもとつながる

子どもが表現した内容に心を傾け、些細な変化や成長を見逃さず、個々の内省と教師との対話を繰り返しながら、子どもに寄り添いつながっていく。

③書くことに慣れさせる

褒めて励ましながら、繰り返し取り組んでいくことにより、「書ける」「書いてみたい」という気持ちを持てるようにしていく。

３．取り組み方

①教師がテーマを与える

②長期（月・学期・学年等）・短期（行事等）に関わらず，**目標を設定**する

③長期・短期に関わらず、**意図的に短いスパンで立てた目標を振り返る機会**を設ける

④学年の発達段階を考慮しながら、**数値等により自己評価**する

例

○運動会のめあて
考えを伝えながら運動会をつくりたい。

○小運動会を振り返って
綱引きの作戦会議の際に引き方のポイントを友達に伝えることができた。他の学年の団体競技の作戦を考えて、チームの仲間に伝えたい。

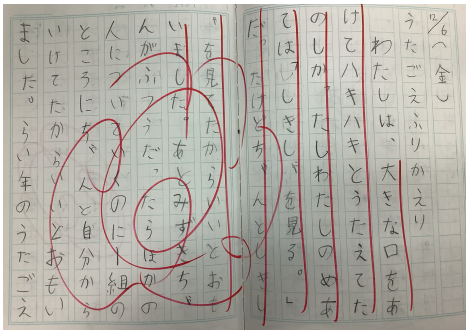
○運動会を振り返って
目標である「考えを伝える」を達成することができた。
達成度・・・５（５段階中）

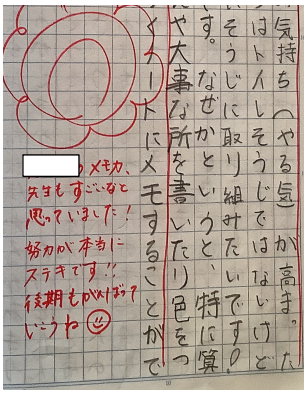
４．留意点

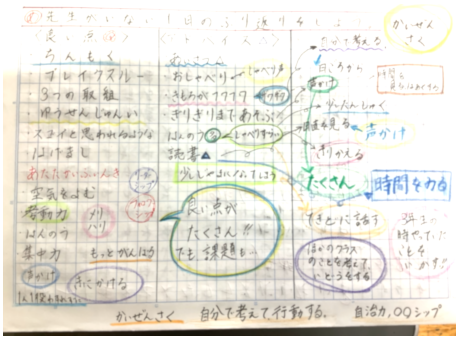
①あくまで普段の授業等における振り返りにおいて、目標を意識し、その目標に対して自分が今どの状況かを、なるべく妥当に捉える経験を積むものや、振り返りを記述する力（書く力）を高めるものであり、**各教科・各領域の評価としては利用しない**。

②「数値等により自己評価する」は、「点」や「％」など、**各学年の発達段階に合わせて相談の上で決定**する。ただし、学年間では統一する。

③本来のねらいに基づき、「成長ノート」を**児童同士で見合うことは行わない**。基本的には教師と児童のやりとりで、コメントもサイン等のみだが、あまりに自己評価が妥当と言えない場合や、生活・学習意欲を高める上で機を逃さない指導が必要な児童は、**教師の負担にならない程度で、児童が前向きになれるようなコメントを記入してもよい**。







５．キャリアパスポートとの関連

・成長ノートをキャリアパスポートの一部とする。年間使用した成長ノートの内容の中から、児童が将来の自分のために残しておきたいものを選択する。年度末にキャリアパスポートファイルに綴じ，次年度へ持ち上がる。